

野菜の展望

今年は全国的に未曾有の酷暑とんり、梅雨明け以降、35℃超えの猛暑日が続き、記録づくめの年となりました。どの産地でも、生育中のものはヤケ・枯れ・倒状が発生し、播種したものは発芽しない、そんな厳しい生育環境が続きました。その影響もあり、10月までは不足する品目も多くありましたが、暖秋傾向から11月入っての入荷は数品目を除けば順調となっています。今年にはラニーニャとなる予報でしたが暖い日々が続き、日本本土への上陸もほぼなく、9月中旬以降の好天からそれ以降に播種された農産物の生育はおしなべて順調となっています。

葉茎菜類の白菜は、茨城産他が入荷となり、石川産は中旬で終了です。キャベツは愛知・石川産中心に、安定した出回りとなります。葱は石川産結束品主体に上旬より大分産の入荷で、バラ物では埼玉・群馬産等が入荷となります。レタスは兵庫産中心に静岡・長崎産の入荷となります。ほうれん草は石川・静岡産主体に、福岡・群馬産の入荷となります。

根菜類の蓮根は石川産が前日掘りをスタートしたことで増量が見込まれ、他に茨城産も加わり、日々安定した入荷量が期待できます。大根は千葉産中心の入荷となります。各地順調な入荷が見込まれます。人参は愛知産中心の入荷となります。岐阜産と石川産は平年を下回る見込みで、中旬までの入荷を見込みます。それ以外の各産地は好天に恵まれ順調な入荷が見込まれます。

果菜類の胡瓜は高知・愛知産主体に平年並みの入荷が予想されますが、石川産については終盤を迎えます。茄子は高知産・愛知産・長茄子は熊本・福岡産の比較的安定した入荷を見込みます。トマトは石川産が終盤となり、愛知産を中心に、中下旬より増量が見込まれます。ピーマンは高知・鹿児島産で安定した入荷となる見込みです。冬至に需要が高まる南瓜は石川・鹿児島産中心に、メキシコ産の入荷ですが、輸入品は円安の影響が大きく、入荷量は大幅に減少する見込みです。柚子は高知・徳島産中心ですが、主産地の高知県は表年、徳島県は主力となる阿南地区が表年で他の地域は裏年です。肥大状況は少雨による影響から小玉傾向となっています。高知産は5kgバラ玉、徳島産は250gパック中心の入荷です。高知産、徳島産ともに潤沢な入荷を見込んでいます。きのこ類では石川産椎茸を中心にえのき・ナメコやぶなしめじ等は電気料金・資材費他の上昇により、前年の1~2割の減産が見込まれております。石川産の原木椎茸「のとてまり」は12月16日(金)が初売りの予定です。石川産のせりの生産者は2軒に減少しており、熊本・大分・高知・宮城等の県外産で、年末需要に対応してまいります。

土物類の馬鈴薯は北海道・長崎産の入荷です。北海道産の産地での在庫は十分にあり、順調な入荷が見込まれますが、平年より温暖な気候のせいか、発芽が多いことをご理解いただきたいです。長崎産も順調とみられます。玉葱は北海道産の入荷ですが、夏場の高気温の影響により、収穫量少なくヤケ品も多い為、出荷量伸びず高単価で推移する見込みです。ごぼうは青森産主力に2M・Sを中心に順調な入荷が見込まれますが、九州産の新ごぼうは成育期の天候不順から不作傾向と予想されております。長芋は北海道・青森と両産地共に新物出そろいます。両産地共に豊作基調で太物中心の順調な入荷が見込まれます。

12月はお歳暮・クリスマスなど最需要期を迎え、集荷には万全を期して参りますので販売拡大にご協力をお願い申し上げます。

《野菜第二部部長 杉本智則》

果実の展望

あわただしい師走に入り、年末贈答の最需要期を迎える時期となりました。

みかんは表年で、入荷量は昨年より減少と予想されます。食味について糖度は例年並み、酸味切れのよいみかんとなっております。肥大状況についてはL・Mサイズ中心の出荷です。このことから、今年は福岡産(マイルド)・長崎産(味ロマン)などの、高糖度商品の割合は多いです。尚、早生種から普通種への切り替わりについては、主力産地の長崎・福岡産ともに10日頃となる予定です。

りんごは長野・山形・青森からの出回りで、前年よりも出荷量は減少見込みです。

苺は愛知・九州地区より、章姫・紅ほっぺ・ゆめのか・あまおう・さがほのか等の各品種の入荷があり、今後の天候の影響にもよりますが順調な見通しとなっております。

柿は福岡産(JAにじ)より中旬から冷蔵富有柿に切り替わっての入荷です。

干し柿は石川産中心の入荷で、JA志賀のころ柿は前年並みの入荷見込みです。富山産についても同じく前年並みの入荷となる予想です。

メロンについては静岡産が前年よりも出荷量は減少すると見られ、高知・九州地区についても少ない入荷となる見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン産中心に南米産の入荷で、各産地ともに順調な入荷となります。オレンジはオーストラリア産バレンシア、の72玉・88玉中心の販売となります。グレープフルーツはメキシコ産中心の販売で、フロリダ産やトルコ産も入荷します。前年より入荷が少ない為、各産地から集荷となります。レモンはチリ産の販売を継続し、中半あたりからカリフォルニア産の入荷で140玉、165玉の小玉サイズの販売となります。パインはゴールデン・スウィーティオとともに順調な入荷が見込まれます。その他、オーストラリア産ハネジュウメロン、カリフォルニア産シードレスブドウ・メローゴールド・、メキシコ産アボカド、ブラジル産マンゴーに加えてオーストラリア産とタイ産の入荷も見込まれています。

本年も一年間の締めくくりの月となりましたが、何卒宜しくお願い申し上げます。

《果実部部長 荒木 智》